

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

### 13. エノコログサ（イネ科エノコログサ属）

#### *Setaria viridis* (L.) Beauv.

2014年9月

道ばたや畦畔、空き地など至るところに生育する1年草です。茎基部は地表を這い、分枝して節から根を出し広がります。8月から11月頃まで細い稈を立ち上げ花を咲かせます。葉は線形から披針形で長さ10~20cm、質は無毛で薄く、基部は茎を抱き葉鞘となり、縁に軟毛があります。花穂は淡緑色で円柱状の長さ3~6cm、径8mm程度で直立するかやや垂れることもあります。剛毛は緑色で小穂の2~5倍長で上向きにざらつきます。時に剛毛が紫色を帯びる型がありムラサキエノコログサ (*Setaria viridis* (L.) Beauv. forma *misera* Honda) といます。

第二苞穎は小穂と同じ長さ（約2mm）で種子が見えませんが、和名は狗の子草<sup>いぬ</sup>の意味で、花序が子犬の尾に似ていることからつけられました。またネコジャラシともいい、ネコが穂にじゃれつくことからいわれます。穀物のアワ (*Setaria italica* (L.) Beauv.) は中国で本種を改良したものといわれています。身近にあってよく似た種類にアキノエノコログサ (*Setaria faberi* Herrm.) とキンエノコロ (*Setaria glauca* (L.) Beauv.) があります。アキノエノコログサはエノコログサよりやや大型で葉の表面にしばしばまばらに毛があること、花穂は垂れて赤紫色を帯びるものがあり、小穂は3mmとやや大きく、第二苞穎が短く種子の一部が裸出します。キンエノコロは茎は叢生し、あまり分枝しません。剛毛は黄金色または褐色を帯び、小穂は3~3.5mmと大きく、種子は半分ほど露出するのが特徴です。



エノコログサ



アキノエノコログサ



キンエノコロ